

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第六小学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読むことに課題が見られる。 ・ 平仮名や片仮名の定着に個人差があり、自分の考えを文章に表現することに課題が見られる。 ・ 語彙が少なく、促音や長音などを正しく書くことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ すらすらと音読できるように音読教材を積極的に活用し、音読の機会を増やす。 →音読発表会をし、それぞれの児童の音読の様子から理解を確認する。 ・ サイドラインを引かせるなど、丁寧に物語の読み取りを行う。 →2学期からのテストで見取る。(目標値：80%以上) ・ 促音、拗音、長音の定着度を測り、理解度に応じた指導を行う。 ・ 読み聞かせの機会を多くもち、気持ちを表す言葉や日常遣いの語彙を増やすようにする。 ・ 理解が十分でない内容については朝学習、学習ソフトやEライブラリで繰り返し学習する。 →言語に関するミニテストから見取る。(目標値：正答率80%以上)
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量やその関係を言葉・数・式・図などに表したり読み取ったりすることに課題が見られる。 ・ 文章題で正しく立式することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物、半具体物を操作する活動や視覚的に捉えることができる教材などを多く取り入れて数量感覚を養う。図を描いて考える機会を多く取り入れる。 ・ 正しく立式するための根拠となるキーワードや数字を見付け、サイドラインを引く等の手だてをとる。 →2学期からのテストで数量関係や立式の理解を見取る。 (目標値：正答率80%以上)

生活	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験の差が大きく、季節の感じ方、活動に対する意欲に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 春、夏、秋、冬の各季節ごとに体験活動を行い、人や物と積極的に関わることができるよう、計画的に進める。 日常的に自然と触れ合う活動を重視し、タブレット端末を活用し、写真を撮って観察したり比較したりまとめたりできるようにする。 観察する視点を広げて、気づきをたくさん表現できるようにしていく。 →観察カードやワークシートなどに、気づきや感じたことを表現できる。（目標値：80%以上の児童）
特別の道徳の教科	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの意見や考えをもつことに課題が見られる。 自分自身を客観視して考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーサート等、教材提示の仕方をさらに工夫し児童が学習内容を十分理解できるようにする。必要に応じてICT機器を活用する。 少人数による意見交流の場を設ける等、対話的な学びができるようにする。 役割演技や考える時間の確保、友達の意見を参考にできるような板書の工夫をする。 →ワークシートに自分の考えを書くことができるようにする。（目標値：90%以上の児童）また、自らの意見を発表できる。（目標値：50%程度の児童）